

# 平成30年度 男女共同参画に関する意識調査結果

## 《概要版》

### ○ 調査目的

男女共同参画社会の実現に向け、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、調査結果は第2次男女共同参画プランの進捗管理に用いるとともに、次期プラン策定の基礎資料とするもの。

### ○ 調査内容

1. 男女共同参画に関する言葉について
2. 家庭生活について
3. 職業について
4. 男女の人権について
5. 男女共同参画について
6. セクシュアル・マイノリティについて

○ 調査対象 帯広市に住所を有する20歳以上の男女1,000人

○ 抽出方法 地区別・男女別・年齢階層別無作為抽出

○ 調査方法 郵送による自記式アンケート

○ 調査期間 平成30年4月27日～平成30年5月15日

## 回答の状況

○ 回収結果 有効発送数 995人 回収数 391人 回収率 39.3%

(※前回調査は、平成25年度37.4%)

### 回答者の属性

#### (1) 男女別回答数

	回答数	比率
女性	238	60.9%
男性	151	38.6%
その他	2	0.5%

#### (2) 年齢別回答数

	回答数	比率
20～29歳	30	7.7%
30～39歳	41	10.5%
40～49歳	58	14.8%
50～59歳	78	19.9%
60～69歳	85	21.7%
70歳以上	99	25.3%
無回答	0	0.0%

#### (3) 既婚・未婚別回答数

	回答数	比率
現在結婚している(事実婚などを含む)	279	71.4%
結婚したことはあるが現在独身(死別含む)	56	14.3%
結婚したことがない(未婚)	54	13.8%
無回答	2	0.5%

#### (4) 家庭形態別回答数(既婚者のみ)

	回答数	比率
共働き	135	48.4%
共働きではない	119	42.7%
その他	11	3.9%
無回答	14	5.0%

# 調査結果について

(※「前回調査」は平成25年度実施)

## 1. 男女共同参画に関する言葉について

### (1) 見たり聞いたりしたことのある言葉について

「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は95.7%と最も高く、前回調査より2.2ポイント増加している。次いで「男女雇用機会均等法」89.3%、「育児介護休業法」73.9%で、それぞれ前回調査より6.1ポイント増加、1.3ポイントの減少となっている。

【問1】言葉の認識（複数回答）

(%、ポイント)

	今回調査	前回調査	増減
DV	95.7	93.5	2.2
男女雇用機会均等法	89.3	83.2	6.1
育児介護休業法	73.9	75.2	△1.3
男女共同参画社会	62.4	58.7	3.7
ジェンダー	51.2	28.4	22.8
ワーク・ライフ・バランス	44.0	32.3	11.7
女子差別撤廃条約	43.0	42.7	0.3
女性活躍推進法	39.9	—	—
ポジティブ・アクション	20.2	19.9	0.3

※女性活躍推進法…平成30年度調査追加項目

## 2. 家庭生活について

### (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について

女性は「賛成」が25.2%、「反対」が65.5%で、男性は「賛成」が33.1%、「反対」が53.0%と、男女とも前回調査より賛成が減少し、反対が増えている。

【問2】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

(%、ポイント)

	今回調査			前回調査			増減		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性	全体	女性	男性
賛成	28.2	25.2	33.1	38.0	33.3	43.9	△9.8	△8.1	△10.8
反対	60.9	65.5	53.0	50.7	54.2	46.4	10.2	11.3	6.6

「賛成」～「賛成」、「どちらかといえば賛成」の計

「反対」～「反対」、「どちらかといえば反対」の計

### (2) 家庭での家事、育児、介護の役割分担について

「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい」が男女とも最も多く、女性が65.1%、男性が61.6%となっており、いずれも前回調査より増加している。(前回調査 女性52.1%、男性47.3%)

【問3】家庭での家事、育児、介護の役割分担

(%)

	どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい	男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい	家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい	男性は家事、育児、介護をしなくてもよい
全体	63.7	23.0	9.0	0.5
女性	65.1	23.1	7.1	0.8
男性	61.6	23.2	11.3	0.0

次いで「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」が女性23.1%、男性23.2%となっている。

また「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」は9.0%で、前回調査より18.3ポイント減少している。(前回調査27.3%)

(3) 仕事・家庭生活等の優先度について（希望と現実）

男女ともに希望は、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが（女性32.4%、男性27.8%）、「現実」の優先度では、

【問5、6】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」優先度 (%)

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	全てを優先
女性希望	3.4	18.9	5.5	32.4	3.4	17.6	17.2
女性現実	20.6	26.5	3.8	19.7	5.0	16.0	5.0
男性希望	7.3	12.6	5.3	27.8	5.3	13.2	25.2
男性現実	36.4	11.9	5.3	18.5	8.6	9.3	7.3

女性は「家庭生活を優先」（26.5%）、男性は「仕事を優先」（36.4%）がそれぞれ最も多い結果となっている。

3. 職業について

(1) 女性が職業を持つことに関する考え方について

男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多く（女性37.0%、男性43.7%）、次いで「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（女性33.6%、男性35.8%）となっている。

【問7】女性が職業を持つことについて (%)

	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい
全体	39.6	34.5	5.1	3.8	1.5
女性	37.0	33.6	4.2	2.5	2.5
男性	43.7	35.8	6.6	6.0	0.0

過去からの調査結果の推移を見ると「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という考え方が増加の傾向にある。（H20年26.5%、H25年33.6%、今回調査39.6%）

(2) 女性の働きやすさについて

「大変働きやすい」「ある程度働きやすい」と答えた人は31.7%で、「働きやすいとは思わない」「あまり働きやすいとは思わない」と答えた人は、53.2%であった。

【問8-1】現在の社会での女性が働きやすさ (%)

	全体	女性	男性
働きやすい	31.7	28.6	37.1
働きやすいとは思わない	53.2	54.2	51.0

「働きやすい」～「大変働きやすい」、「ある程度働きやすい」の計  
「働きやすいとは思わない」～「働きやすいとは思わない」、  
「あまり働きやすいと思わない」の計

「働きやすいとは思わない」と答えた人に理由を問う設問では、男女ともに「育児施設が十分整備されていない」や「労働条件が整っていない」、「働く場が限られている」といった働くための条件・環境に関することが上位3項目を占めた。

【問8-2】女性が働きやすくない状況と思う理由（複数回答） (%)

	全体	女性	男性
育児施設が十分整備されていない	76.4	73.6	80.5
労働条件が整っていない	68.8	71.3	64.9
働く場が限られている	54.3	55.0	51.9
昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある	45.2	42.6	50.6
結婚・出産退職の慣行がある	40.4	37.2	45.5
家庭の理解、協力が得にくい	38.5	45.7	24.7
「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	37.0	38.0	36.4
能力発揮の場が少ない	21.6	15.5	32.5

また、「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」、「結婚・出産退職の慣行がある」、「家庭の理解、協力が得にくい」、「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」といった社会慣行・通念を理由に選んだ人は40%前後となっている。

#### 4. 男女の人権について

##### (1) DV、セクハラ被害経験等について（複数回答）

女性のDV被害は10.1%、セクハラ被害は22.3%で、男性のDV・セクハラ被害はいずれも1.3%となっており、DV・セクハラともに被害の割合は女性が多くなっている。

【問10-1、11】DV、セクハラについての経験等 (%)

	DV			セクハラ		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
自分が直接被害を受けた経験がある	6.6	10.1	1.3	14.1	22.3	1.3
相談を受けたことがある	12.0	13.0	10.6	8.2	9.2	6.6
相談を受けたことはないが、当事者を知っている	16.4	17.6	13.9	10.2	8.0	13.9
テレビや新聞などで話題になっていることは知っている	75.7	76.1	76.2	79.8	80.7	78.8
見聞きしたことはない	14.6	12.6	17.2	15.3	14.3	16.6

DV被害を受けた経験のある人に、相談先について質問したところ、友人・知人53.8%、家族・親族46.2%で、医師、弁護士、市の女性相談等と続いている。

一方で、DV被害を受けても「相談をしなかった」と回答した人が26.9%あった。

#### 5. 男女共同参画について

##### (1) 各分野での男女の地位の平等感について

「平等」と答えた人の割合は、「学校教育の場」において最も高く58.8%となっているが、その他の分野においては30%を下回っている。また、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は、すべての分野において10%未満であるのに対し、「社会通念・慣習など」、「政治の場」、「社会全体」においては、「男性の方が優遇されている」とする人の割合が、70%を超える結果となっている。

【問14】各分野での男女の地位の平等感 (%)

	今回調査		
	女性優遇	男性優遇	平等
社会通念・慣習など	2.3	78.5	7.4
政治の場	1.5	75.5	10.2
社会全体	5.6	73.6	9.2
職場	6.9	65.7	20.7
家庭生活	9.2	52.1	29.4
法律・制度	6.9	49.6	24.8
学校教育の場	4.1	16.9	58.8

「男性優遇」～「男性が非常に優遇」、「どちらかと言えば男性」の計  
「女性優遇」～「女性が非常に優遇」、「どちらかと言えば女性」の計

#### 6. セクシュアル・マイノリティについて

##### (1) セクシュアル・マイノリティという言葉について

男女ともに、「言葉も意味も知っていた」が最も多く（女性59.7%、男性57.0%）、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が23.0%で、「言葉も意味も知らなかった」が17.9%となっている。

【問17】セクシュアル・マイノリティという言葉について (%)

区分	全体	女性	男性
言葉も意味も知っていた	58.6	59.7	57.0
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	23.0	24.8	20.5
言葉も意味も知らなかった	17.9	14.7	22.5